

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 6年次生 吉村 芙美

1. はじめに

平成 27 年 11 月 6 日(金)から 11 月 9 日(月)の 4 日間、本学国際交流基金助成事業の助成を受けて、オーランド(アメリカフロリダ州)で開催された 2015 American Heart Association Scientific Sessions へ参加し、e-Abstract Session において「Factor Xa inhibition prevents cardiac remodeling induced by intermittent hypoxia in sleep apnea model mice」の演題で口頭発表を行いました。



(写真 1) 学術集会が行われた Orange Country Convention Center

2. AHA について

American Heart Association (AHA) Scientific Sessions は基礎的、先端のおよび臨床的な心血管学術集会です。今年オーランドで平成 27 年 11 月 7 日(土)から 11 月 11 日(水)までの 5 日間開催され、アメリカ、日本など 100 カ国以上から約 18000 人の参加者、5000 以上のプレゼンテーションがありました。

AHA は循環器における学会の中で世界トップクラスというだけあり、会場はオーランドを代表するセンターともいわれる Orange Country Convention Center を貸し切っており、想像以上に広く大きな会場に圧倒されました。また、日本の学会では見ることができない風景が多くあり、Abstracts は冊子ではなく専用のアプリをダウンロードすることで確認ができ、至る所にパソコンが置かれスケジュールや発表する場所の検索など調

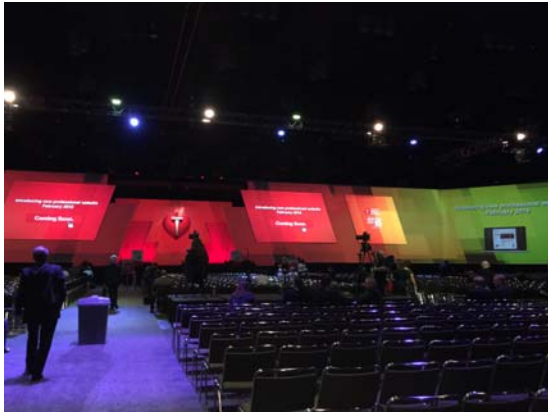
べられるようになっていました。さらに、毎日 DailyNews という新聞が発行され、それを読むことで前日の学会内容がわかるように工夫されていました。



(写真 2) AHA 会場に入り Speaker Registration にて

会場について思ったことは日本人が多いということでした。国際学会で日本人が活躍している場を見ることができとても誇らしく思いました。しかし、挨拶など交流ができたのは海外の参加者の方々でした。目があえばあいさつをし、ポスター会場でも気さくに声をかけてくださるなど友好的で、簡単な英語でもジェスチャーを交えながら相手の目を見て話すことで会話ができることを実感しました。

8日(日)の **Opening Session** では、180度わたるスクリーンがある会場で、まるで何かの授賞式が行われるかのような演出がなされており、とても活気あるものでした。専門用語も多く英語を理解することに苦戦しましたが、プレゼンターの方々の発表の仕方は抑揚をつけながらゆっくりかつはっきりと話し、時折ジョークを交えることで会場を湧かせ聞き手との距離を縮めていました。この演説を聞くことで海外において発表する際にはどのように発表するといいいのか、どのようにしたら相手に言いたいことを伝えられるのかを学び取ることができました。



(写真 3) Opening Session の会場と様子

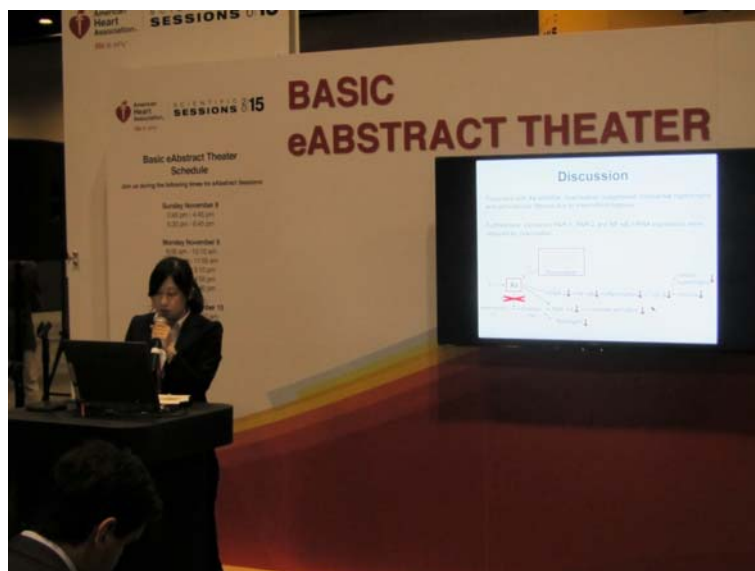
また、この学会で一番印象的だったことは、心肺蘇生の講習会でした。AHA は科学的な「心肺蘇生 (CPR) と救急心血管治療 (ECC) のためのガイドライン」を公表し、すべての人が救命の簡単な手順、Hands-Only CPR を学習できる取り組みを行っているため、無料で CPR 講習会に参加できるようになっていました。ブースの前には「BE A HERO!」の文字とヒーローが描かれた看板がありとてもユニークだと思いました。講習会はまず、参加者が一体になれるように音楽に合わせて軽いステップをすることから始まりました。実際に心肺蘇生の練習では Bee Gees のディスコ音楽「Stayin' Alive」の曲のテンポに合わせて胸部を圧迫させていました。ただ練習するだけでなく、皆が楽しみながら講習を受け、親しみを持てる曲にすることで印象に残り、実際に蘇生を行うときにとっさに思い出せるようにする取り組みが素晴らしいと思いました。また、この講習に様々な国の方々が参加され、人命救助に国境はないのだと改めて感じました。



(写真 4) 心肺蘇生 (CPR)講習会の様子

3. e-Abstract Session での口頭発表

私は e-Abstract Session の Cardiac Failure, Repair, and Remodeling (10:45～11:55)での発表となっており、口頭発表5分、質疑応答5分でスライドを用いた口頭発表を行いました。初めての英語での発表となるため、事前に原稿を考えアクセントを確認し、どのように抑揚をつければいいのか、言いたいことが伝わるかを考え何度も発声練習を行った後に発表に臨みました。自分の英語が参加者に伝わるのか不安でしたが、発表後にモデレーターの方に「Good presentation.」と褒めていただいたので嬉しく思いました。しかし、質問の意図を正確に聞き取ることができず、十分に相手に伝えることができなかったことが心残りとなりました。今回の発表で、もっと自信を持って発表することや相手の意図を汲み取ることが今後の課題であることを認識することができ、有意義な発表となりました。



(写真 5) 口頭発表の様子

4. 終わりに

今回、国際交流基金助成事業の助成により、アメリカフロリダ州、オーランドで開催された 2015 American Heart Association Scientific Sessions において口頭発表を行うことができ非常に貴重な体験をさせていただきました。日本の学会とは雰囲気は違い、また、日常会話ではジェスチャーを用い簡単な英語で自分のペースで話すことができますが、学会など専門分野での発表においては専門用語をはじめ相手の意図していることを汲み取れないことが多く、言葉の壁を強く感じた学会となりました。相手に伝えたいのに言葉が出てこないもどかしさや相手ともっと意思の疎通を取りたいのに出来ない悔しさを十分に経験できたと思います。この経験を活かし、今後は海外の方と積極的に交流を持つことで言葉の壁の乗り越え、より広い視野で多くのことを経験していきたいと思

います。今回このような機会を設けて頂き感謝申し上げます。



(写真 6) 口頭発表後、e-Abstract Session ブース前にて
左：林 哲也教授、右：筆者